

## 生活定点観測調査から見た「プライベート」に対する意識や過ごし方の変化 今回の調査で初めて「仕事よりもプライベート」派が半数を超える

東京ガス株式会社はこのたび、東京ガス都市生活研究所が実施した「生活定点観測調査※」をもとに、都市生活レポート『プライベートは“ウチ余暇”を楽しむ～家での日常を大切に、新しいフツウの暮らし～』を発行しました。

このNEWSLETTERでは本レポートの内容を一部紹介すると共に、ゴールデンウィークの過ごし方をご提案しています。

本レポートは、東京ガス都市生活研究所ホームページよりダウンロードが可能です。

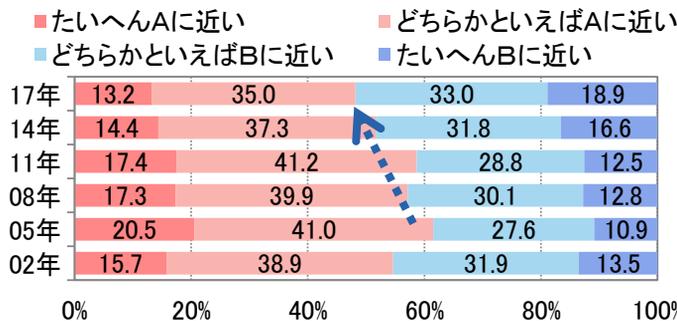
URL: <http://www.toshiken.com/life/>

### 「仕事よりもプライベート優先」が明確に

社会的要請や各企業の取り組みにより「働き方改革」や「ワークライフバランス」などが制度として整えられてきたことで、「仕事」と「プライベート」の位置づけの変化を感じる人が多い現代ですが、調査結果からもその変化を捉えることができました。

### 2017年の生活定点調査で初めて「余暇」重視が「仕事」重視を上回る

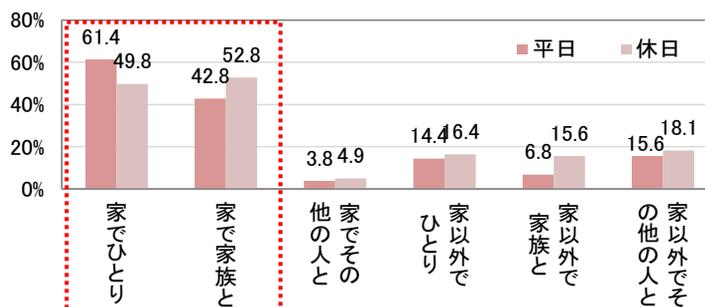
＜生活の力点＞ **A仕事においている** **B余暇においている**



### 「プライベート重視」な現代人の余暇の過ごし方

「余暇」と聞くと、その過ごし方は旅行などを思い浮かべる方も多いと思いますが、調査から明らかになったのは「余暇は家で」という人々が多数派であるということ。特別なレジャーより、家での日常を重視する傾向にあることがうかがえます。

自由に使える時間をどこで誰と過ごすことが多いか (複数回答)





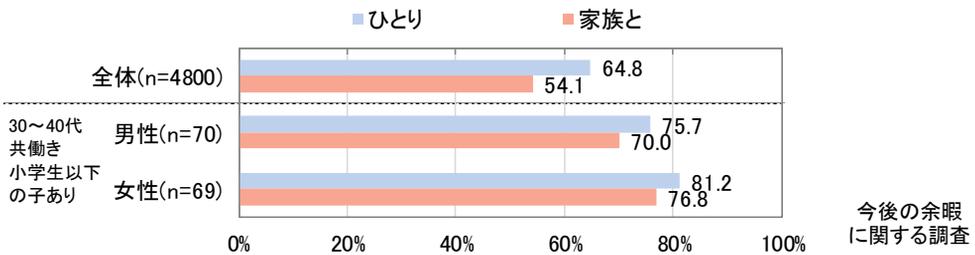
## 共働き子育て層に、家での「ひとり時間」「家族時間」が足りていない

確保できる余暇時間やその過ごし方は、ライフステージや家族構成、働き方によって変化します。今回の調査で、余暇時間を十分に確保できておらず、余暇を充実させたい意向の強いことがわかった「共働き子育て層」に着目し、その層のニーズを見ていきます。

共働き子育て層：夫婦ともに週30時間以上労働している30～40代、小学生以下の子供と同居

### 余暇を充実させたい意向が強い共働き子育て層

<余暇の充実意向> 家でひとり、家で家族との過ごし方（充実させたい計）

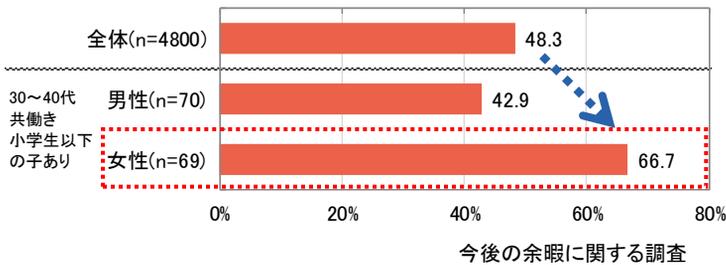


ひとりの時間だけではなく、家族との時間も充実させたいと考えている「共働き子育て層」。具体的にはどのような過ごし方を望んでいるのでしょうか。

## 「もっと美味しい」や「まるでアウトドア」を家庭で

共働き子育て女性が家で美味しい料理を作りたいという意向は6割を超えました。また、親子料理に関する過去の調査(右図)から、家庭における「料理」は子どもとのコミュニケーションのきっかけになっていると推測されます。

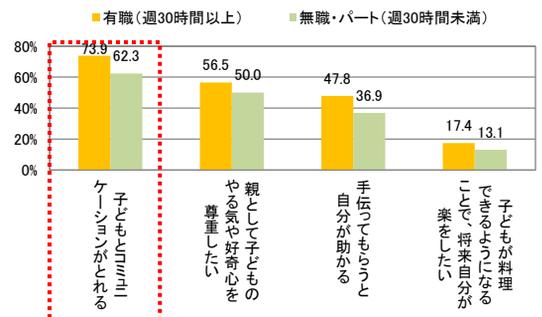
家で美味しい料理を作りたい (あてはまる計)



親子料理は

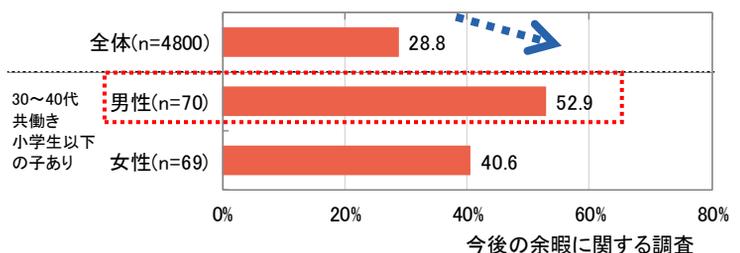
「子どもとコミュニケーションがとれる」

親子料理を日常的に行う理由(就業状況別)



一方、共働き子育て男性で特徴的なのはピクニックやバーベキューなど通常アウトドアで行うようなことを「家で」取り入れたいと考えている点です。日々忙しい共働き子育て男性は「家」で手軽にアウトドア気分を味わえる過ごし方を望んでいるようです。

<取り入れたい余暇> 家で、ピクニックやバーベキューを楽しむ





# NEWS LETTER

TOKYO GAS GROUP

## 今年のゴールデンウィーク(GW)はどう過ごす！？

いかがでしたでしょうか。

調査結果から「仕事よりもプライベート」重視という傾向が明確になり、さらにプライベートは家で過ごす、家好きなウチ余暇派が多いことが分かりました。

共働き子育て層など、日々忙しく家族とのコミュニケーション時間が取りづらい方々は、料理を作りながら会話を楽しめ、気軽にアウトドア気分を味わえる家でのバーベキューをこのGWに楽しんでみてはいかがでしょうか。

家でバーベキュー気分を味わえるおすすめレシピ「チキンの炭火焼き風～グリル野菜添え～」レシピは動画でご覧いただけます。

⇒ [https://www.youtube.com/watch?v=tfi\\_yfyCD1E&feature=youtu.be](https://www.youtube.com/watch?v=tfi_yfyCD1E&feature=youtu.be)

### 調査概要

#### ■ 定点観測調査

- ・ 調査方法：質問紙郵送法
- ・ 調査対象：都市生活研究所TULIPモニター（一都三県在住20代以上男女）

#### ■ 今後の余暇に関する調査

- ・ 調査時期：2018年2月
- ・ 調査方法：インターネット調査
- ・ 調査対象：一都三県在住10-70代男女4800名

	第1回 1990年	第2回 1993年	第3回 1996年	第4回 1999年	第5回 2002年	第6回 2005年	第7回 2008年	第8回 2011年	第9回 2014年	第10回 2017年
有効サンプル数	2783	2826	3107	3484	2336	2580	3112	3267	4295	3914

## ※「生活定点観測調査」について

首都圏に暮らす人々の生活・意識・行動の現状及びその変化を経年的に把握するために定期的に行っている調査です。1990年を始点に3年ごとに調査を実施、2017年7月の調査で第10回目となります。

### 【調査項目】

5つの生活分野

食生活、住生活、入浴・健康・環境関連、余暇・仕事・家庭観、その他生活全般

5つの対象者別質問

家事担当者、家族同居者、既婚者、高校生以下子あり、勤労者

属性

年齢、性別、配偶関係、職業、住居、年収など

2017年の調査結果から各分野のトピックスを紹介する、「生活定点観測レポート2017」を発行しています。



### 一部抜粋

男性の家事参加が増加。家事を主に担当する男性も増え、行動・意識ともに進む

### 夫は家事をどれくらいしますか。【風呂掃除】

